

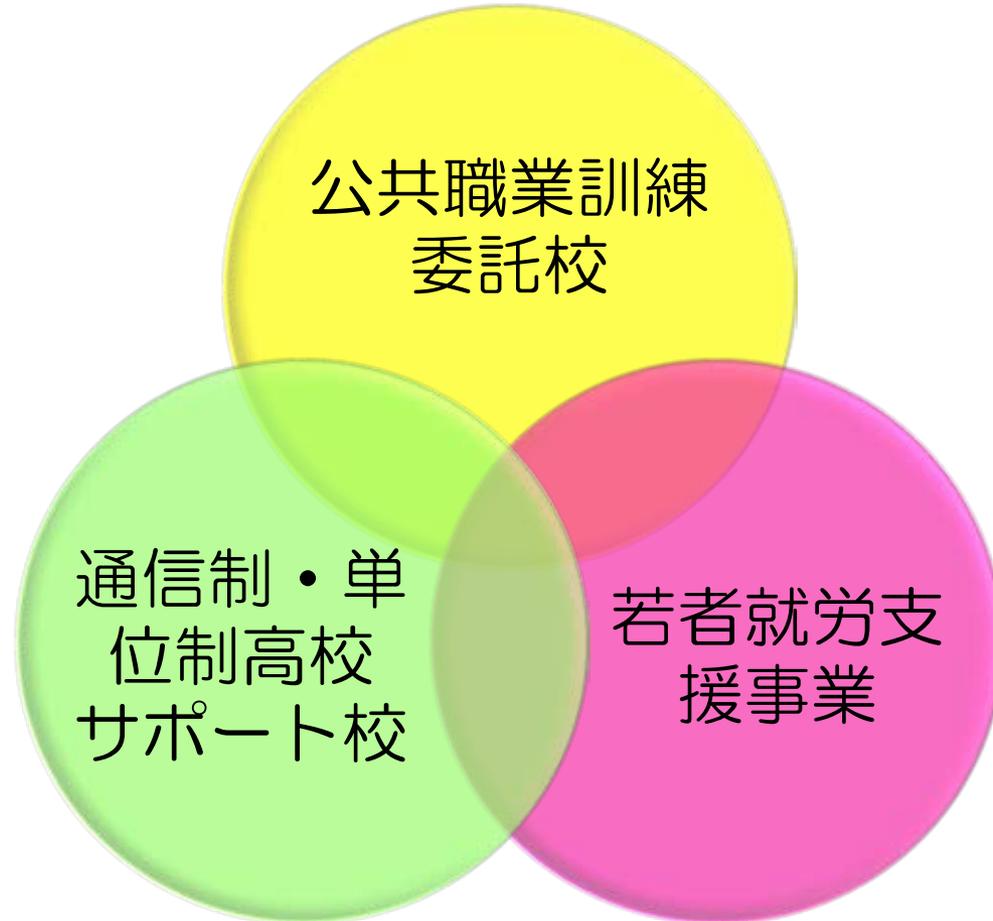
若年就職困難者と個人特性に基づくキャリア支援の可能性

現場報告：若者就労支援機関における取組



アネシス学院（株）
若年就労支援部
統括責任者（臨床心理士）
山本佳奈

事業案内



若者就労支援事業について



- ◆ 平成23年度～：福島県若者自立総合支援事業
若者就労体験等事業 県南地域
- ◆ 平成25年度～：厚生労働省地域若者サポートステーション事業
ふくしま県南地域若者サポートステーション
- ◆ 平成27年度～：ユースプレイス自立支援事業
ユースプレイス県南

若者を支援するスタッフ



キャリアカウンセラー

臨床心理士

支援コーディネータ

若年無業者における職業的課題



<知識やスキルにおける課題>

- ◆ 就職情報の読み方・使い方がわからない
- ◆ 就職活動の仕方や段取りがわからない
- ◆ 就職活動における失敗の理由や対処法がわからない
- ◆ 面接の受け方や履歴書の書き方（特に空白期間の書き方や説明）など就職活動の知識やスキルが不足

若年無業者における職業的課題



＜自己理解における課題＞

- ◆ 自分の得意・不得意が整理されていない
- ◆ 仕事の経験はあるがいずれも短期間か、偏っており仕事のイメージがつかめない
- ◆ 向いている仕事かわからない。経験や能力に合わせた仕事内容や労働条件のマッチングの仕方がわからない

若年無業者における職業的課題



<社会性・コミュニケーション>

- ◆ 人と接することに自信が持てない
- ◆ 同僚、上司等、立場の違いに応じた敬語の使い分けなど、場面や立場を考慮した発言が苦手
- ◆ 過去の仕事経験のなかで人間関係のトラブルがトラウマとなっている
- ◆ わからない時、困っているときに自ら助けを求めない、もしくは求められない。
- ◆ 他者から指摘される場合の対処が苦手

若年無業者における職業的課題

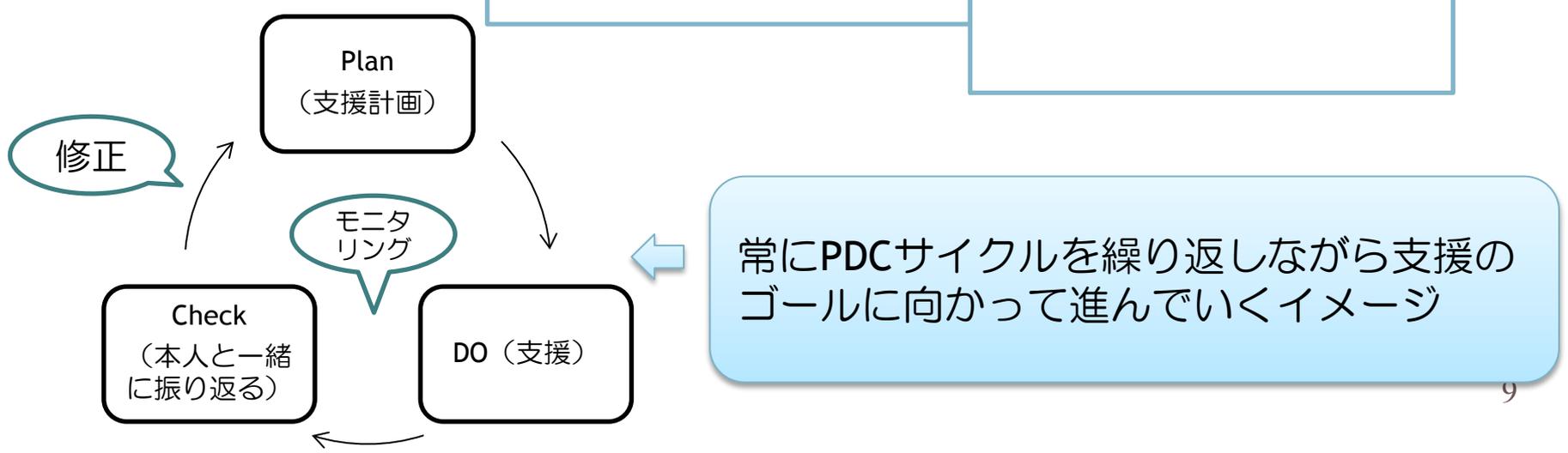
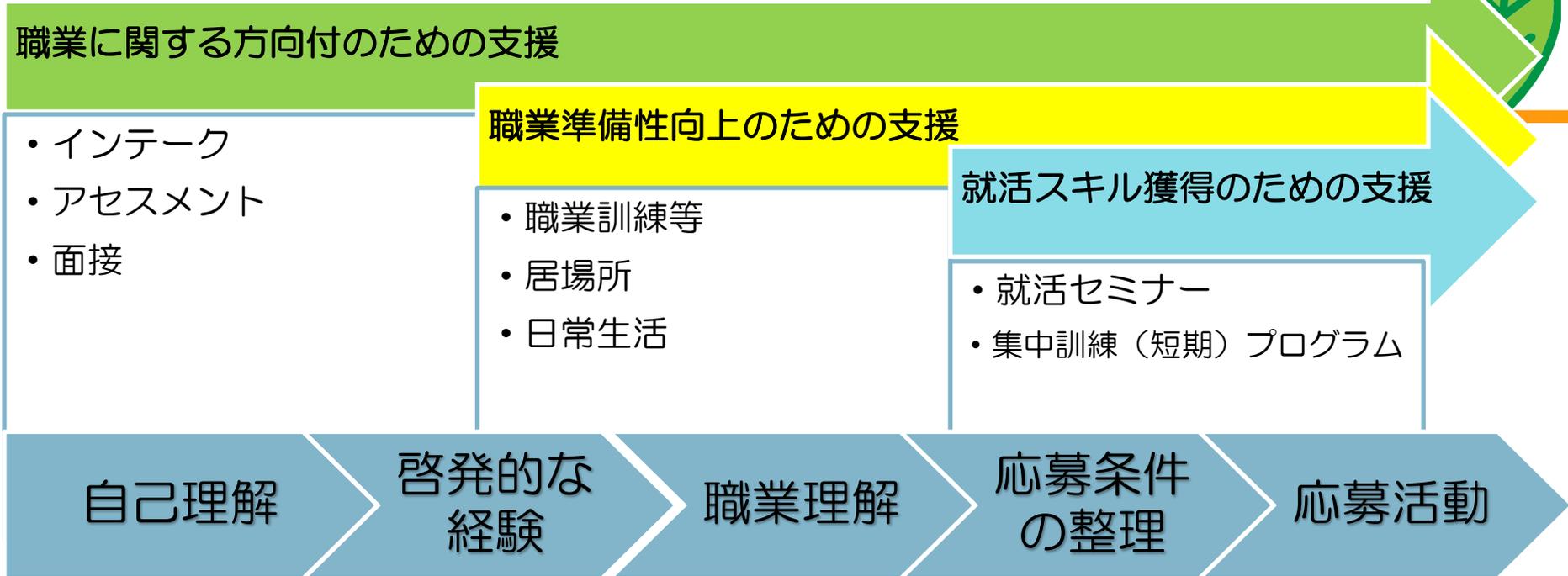


＜偏った情報・思い込み・ブランクへの劣等感＞

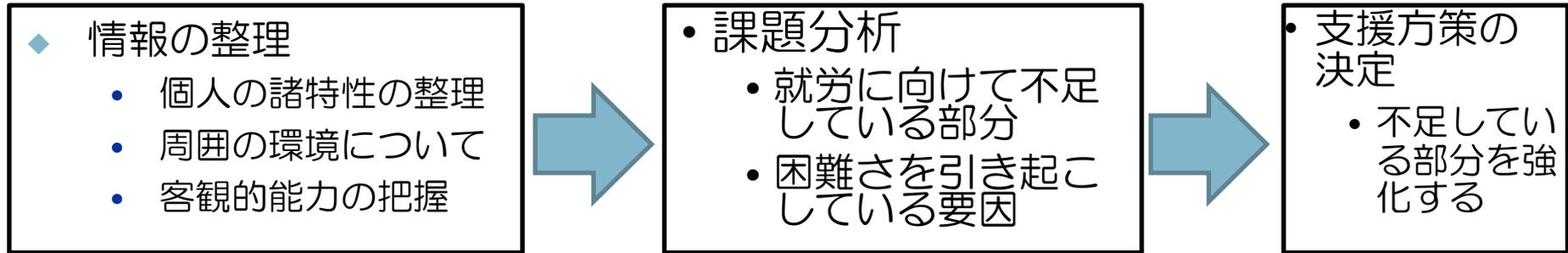
- ◆ 自分に職業選択をする権利はない
- ◆ アルバイトは職歴に入らない
- ◆ 30歳を過ぎたら正社員にはなれないだろう



就労支援（就職が決定するまで）のプロセス



支援計画作成のすすめ方



個人特性に基づいたキャリア支援

アセスメントツールを 活用したキャリア支援



- ◆ 事例：20代 男性
- ◆ 大学在学中に内定が出ず、地元へ戻って就職活動（正社員）を開始するもうまくいかず、若者就労支援機関の利用を開始。
- ◆ アルバイト経験は多少あるものの、自分の得意不得意がよくわからず、応募条件の整理の点で迷っていた。

アセスメントツールを 活用したキャリア支援



- ◆ アセスメントツールとは？
 - 統計的な手法を基盤とした、客観的な評価・情報を提供してくれるもの
- ◆ GATBとキャリアインサイトの実施を提案
 - 厚生労働省編一般職業適性検査
(General Aptitude Test Battery: GATB)

アセスメントツールを 活用したキャリア支援



◆ アセスメントツールを利用した結果

- 客観的なアセスメントツールを利用することで職業適性を考えるきっかけができた。
- 自身の得意・不得意について振り返ることができた。
- 客観的な情報と実体験を結び付けて考えることができるようになった。
- 職業興味や価値観・性格傾向等、自己理解が促進された。

アセスメントツール

利用の前提条件



①アセスメント（評価）を使うかどうか選ぶ

②目的に合わせてツールを選ぶ

③ツールを正しく使う

④実施するかは、自身で決めて頂く



まとめ（支援現場で大切にしていること）

- ◆ 若者の状態像をよりリアルに理解する（若者文化の理解）
- ◆ 社会情勢の理解
- ◆ 就労支援のマップを広く持つ
- ◆ 企業側の視点を持つ
- ◆ 複数の専門家を交えたケース検討
- ◆ 本人の意思決定を支える、伴走的な支援
- ◆ 期間を意識した支援計画と効果測定
- ◆ 支援範囲の提示
- ◆ 本人と確認しあいながら支援計画を考える